

2014年度

入学試験問題

社 会

40分

1. 受験番号・氏名を解答用紙に書くこと。
2. 受験番号は算用数字で書くこと。(例:123)
3. 答はすべて解答用紙に記入すること。
4. 配付されたもの以外の下じき・用紙は使わないこと。
5. 用紙を立てて見ないこと。
6. 質問(印刷不明のところだけ)のある場合、鉛筆などを落とした場合、トイレに行きたくなった場合、気持ちのわるくなった場合は、だまって手をあげること。

I. 私たちは、学校や仕事がないときに、ふだん生活している場所をはなれて旅行をします。楽しみのための旅行は、観光とよばれます。現在の観光について、問に答えなさい。

問 1 下の表は、2012 年にのべ宿泊者数の多かった上位 10 都道府県について、宿泊目的別に宿泊者数を調べたものです。それぞれ観光目的の宿泊者数と仕事目的の宿泊者数を示しています。解答らんに示した神奈川県のグラフを例にして、残りの都道府県のグラフをかきなさい。

表 2012 年の宿泊目的別の宿泊者数(のべ宿泊者数上位 10 都道府県)
(万人)

	観光目的の宿泊者数	仕事目的の宿泊者数
東京都	950	3970
北海道	1720	1140
大阪府	590	1750
静岡県	1290	740
千葉県	1320	620
長野県	1390	440
神奈川県	860	830
京都府	1280	340
沖縄県	1290	270
福岡県	330	1040

※ 表の「観光目的の宿泊者数」とは、「観光・レクリエーション」を目的とする宿泊者が 50% 以上をしめる施設に宿泊した人数のことです。「仕事目的の宿泊者数」は、「観光・レクリエーション」を目的とする宿泊者が 50% 未満の施設に宿泊した人数のことで、おもに「出張・業務」を目的とする宿泊者数です。ただし、万の位を四捨五入してあります。

(観光庁「宿泊旅行統計調査報告(平成 24 年 1~12 月)」をもとに作成)

問 2 2012 年の神奈川県の宿泊者数は、観光目的と仕事目的で、あまり差がありません。仕事目的の宿泊者数よりも、観光目的の宿泊者数が多い都道府県を、神奈川県を除いて左の表からすべて選びなさい。また、それらの都道府県には、たくさんの人を集める観光地があると考えられます。それぞれの都道府県の観光地の特ちょうについて説明した文をア~カから選びなさい。

ア 雄大な自然や温泉地がある。冬はスキーなどのレジャーを楽しむことができる。海産物など特産品の買い物や飲食を楽しむ人も多い。

イ 海水浴やマリンスポーツなど自然を楽しむ施設がある。冬は避寒地となり、戦争の跡などをおとずれる人も多い。

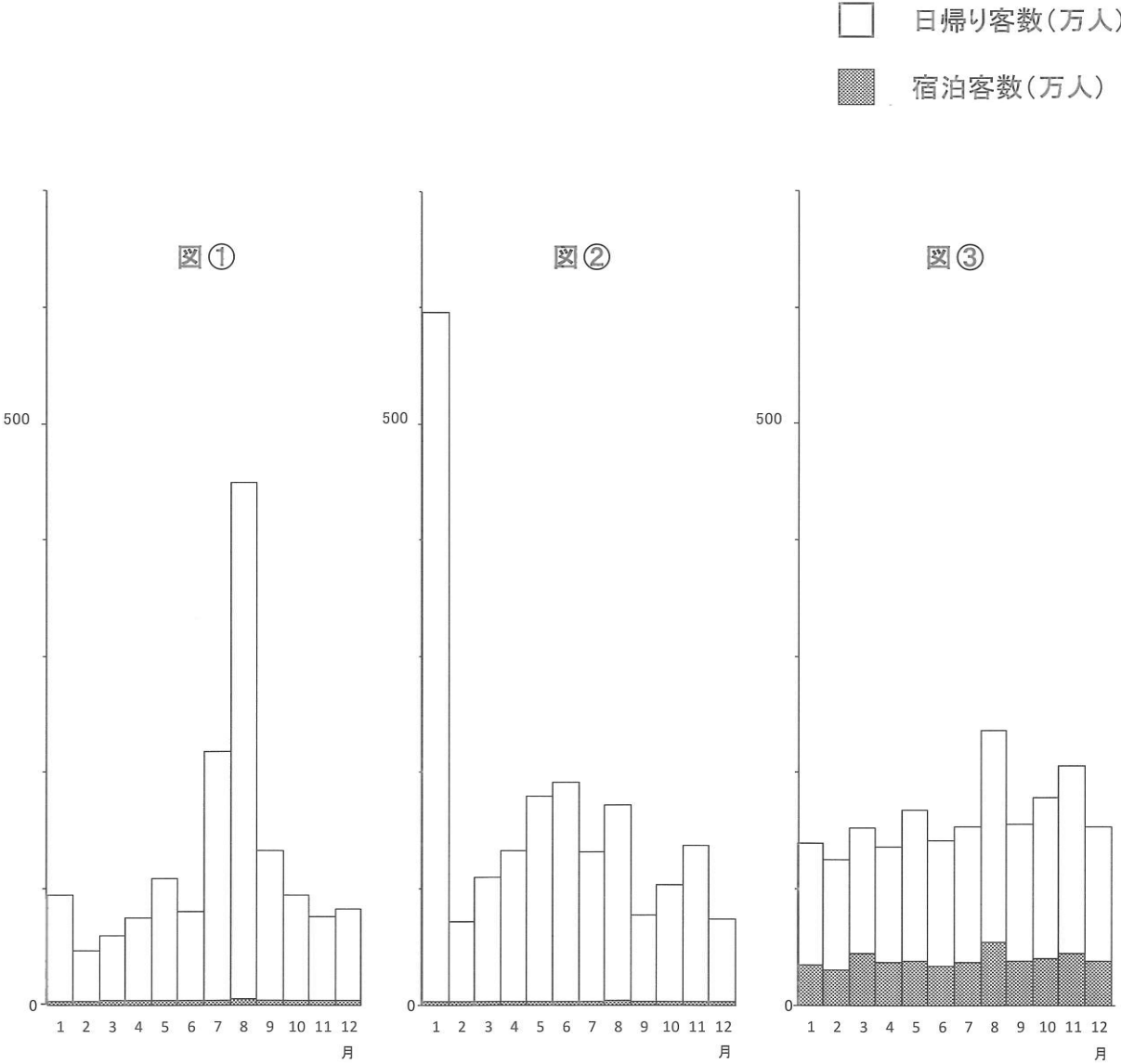
ウ 夏の海水浴を楽しむところがある。登山や温泉を楽しむためにおとずれる人が多い。

エ テーマパークやゴルフ場などのレクリエーション・スポーツ施設がある。夏には海水浴やマリンスポーツを楽しむ人も多い。

オ 夏の避暑地として別荘などがある。山や高原などをおとずれる人や、温泉を楽しむ人が多い。

カ 自然の景勝地のほか、有名な寺社などをおとずれ、歴史や文化などを楽しむ人が多い。

問3 神奈川県には、さまざまな観光地があり、日帰りをふくめ多くの観光客がおとずれます。港や文化・レクリエーション施設などがある横浜市のほかにも、多くの観光客を集める市や町があります。図①～③は、2012年の月別の日帰り客数と宿泊客数を示したグラフです。鎌倉市、箱根町、藤沢市の観光客数を表したものをそれぞれ選び、①～③の番号で答えなさい。また、それぞれの市や町をおとずれる人びとの観光にはどのような特ちょうがありますか。グラフから読み取れることをもとに説明しなさい。



(神奈川県「平成24年 神奈川県入込観光客調査」をもとに作成)

Ⅱ. 文章を読んで、問に答えなさい。

奈良に都がおかれたころ、地方の人びとは、①朝廷の定めたきまりによって都や九州へ旅をしなければなりません。また、②聖武天皇が大仏をつくるように命じた時も多くの人びとが全国から集められました。人びとにとって旅は、強制されたものだったのです。

藤原氏が力をもつようになっていたころは、信仰のために寺社などをおとずれる旅がさかんでした。貴族や皇族による熊野もうでなどは、とても豪華な旅行だったそうです。

武士の時代になると、③御家人が、領地と鎌倉を結ぶ鎌倉街道を行き来しました。また、京都と鎌倉を結ぶ街道を行き来する武士も多くなりました。武士も寺社に参拝するようになり、街道には宿屋などが整備されていきました。また、室町時代には伊勢などへ参拝する人のために、現在の旅行会社のように宿や食事を手配する御師とよばれる人たちも現れました。一方で、武士の時代は、各地で戦いがくり広げられたり、山賊や海賊が出没したり、各地の関所では通行料が徴収されるなど、旅をする人びとの障害が少なくありませんでした。

問1 下線部①について、地方の人びとが、都や九州へ旅をした目的を2つ答えなさい。

問2 下線部②について、大仏づくりに協力した僧で、仏教を広めただけでなく、道や橋などをつくる土木工事を行なって、多くの人びとから尊敬されていた人物を答えなさい。

問3 下線部③について、御家人が領地から鎌倉にむかう必要があったのは、将軍とどのような関係があったからですか。その関係を説明しなさい。

Ⅲ. 文章を読んで、問に答えなさい。

幕府が江戸におかれると、①江戸と各地を結ぶ五街道が整備されました。なかでも東海道は、武士だけでなく、②百姓や町人など多くの人びとが行き来するようになっていきました。『旅行用心集』や『東海道中膝栗毛』などの③旅行案内や旅物語が人びとに読まれました。さまざまな身分の人びとの間に、楽しむ旅行が広まっていきましたが、幕府は自由な旅行を認めていなかったので、旅行は、温泉地での湯治と寺社への参拝が目的とされました。とくに江戸時代には伊勢参りに多くの人びとが出かけました。

江戸時代に日本をおとずれたドイツ人医師ケンペルは、東海道のようすを『江戸参府旅行日記』に記しています。箱根におかれた関所については、次のように書いています。

將軍の関所にさしかかったが、④日本人はみな（A）や馬から下り、かぶり物をぬいで、人も荷物も点検を受けたが、それはただうわべだけ行なわれたに過ぎなかった。⑤万一女性が男装している懸念※がある場合には、そのために任命されている婦人が手でさわって取調べを行なうことになっている。

※懸念＝心配のこと

箱根から小田原に向かう途中のことについては、次のように書いています。

村の右手の川向うには緑に覆われた石垣山があり、ここは日本の歴史で名高い。ここに昔、⑥太閤が陣を張り、またそのほかでは頼朝がここに砦を築いたことなどで、城山と呼ばれる。

⑦小田原の宿場については、次のように書いています。

町の外側には門と番所があり、また両側にはきれいな建物があつた。町筋は清潔でまっすぐに延び、そのうちの中央の通りは特に道幅が広い。郭外の町々を含めると、半時間では通り過ぎることはできない。およそ一〇〇〇戸ぐらいの家々は、小さいけれども、小ざれいで、大抵白く塗られていた。多くの家は方形の土地に小さな庭園を設けていた。

ケンペルは、小田原のほかに、神奈川県内の東海道にあつた⑧藤沢や神奈川などの宿場町や街道のようすについても書いています。⑨これらの宿場町は江戸時代の終わりまで、にぎわっていました。

（ケンペル／斉藤信訳『江戸参府旅行日記』をもとに作成）

問 1 下線部①について、江戸時代には、幕府が中心となって街道の整備がすすめられました。当時の街道整備のようすを説明した文としてまちがっているものをア～エから 1 つ選びなさい。

ア 旅人が木陰で休んだりすることができるように、街道沿いに並木が植えられた。

イ 江戸の日本橋を起点とする五街道では、1 里ごとに目印となる塚がつくられた。

ウ 宿場では、荷物の運ばんや引きつぎが行われ、大名や旅人が泊まる施設がつくられた。

エ 道がぬかるのを防ぐため、街道には石が敷きつめられ、役人は馬車で移動した。

問 2 下線部②について、江戸時代に多くの人びとが旅行に行くことができるようになった理由のひとつに、農業が発展して人びとの生活が豊かになったことがあります。江戸時代の農業について述べた文として正しいものをア～エから 1 つ選びなさい。

ア 米のほかに、菜種・綿・茶などの商品作物が栽培された。

イ 牛や馬などの家畜を使って地面を耕すやり方がはじまった。

ウ 水車を利用して田に水を引く工夫がはじまった。

エ 米の品種改良が進み、ききんがなくなった。

問 3 下線部③について、人びとは旅行案内などの本を利用して旅行を楽しむようになりましたが、このほかにも東海道の各地をかいた浮世絵が評判になりました。「東海道五十三次」の作者を答えなさい。

問 4 下線部④について、多くの人びとは歩いて旅をしましたが、なかには乗り物を使う人もいました。(A)に入る乗り物を答えなさい。

問 5 下線部⑤について、関所では、江戸から地方へ向かう女性を特にきびしく取り調べました。その理由を答えなさい。

問 6 下線部⑥について、太閤は、小田原の北条氏^{ほうじょうし}をたおし、全国統一をはたした人物を指しています。検地^{けんち}や刀狩^{かたながり}を行ったことでも知られるこの人物を答えなさい。

問 7 下線部⑦について、小田原が宿場町として発展した理由を答えなさい。

問 8 下線部⑧について、江戸の人びとは、信仰のために丹沢^{たんざわ}の山に登った後、江の島にむかい、近くにある藤沢宿に泊まることができました。江戸の人びとが登った丹沢の山を答えなさい。

問 9 下線部⑨について、明治時代^{めいじじだい}になると、東海道にあった小田原などの宿場町は、かつてのにぎわいを失っていきました。その理由としてまちがっているものをア～エから 1 つ選びなさい。

ア 街道や宿場町からはなれたところに、鉄道が開通したり駅ができたりしたから。

イ 鉄道が開通して、宿泊しなくても旅行ができるようになったから。

ウ 職を失った武士たちの多くが宿屋を始めたが、もうけることができなかったから。

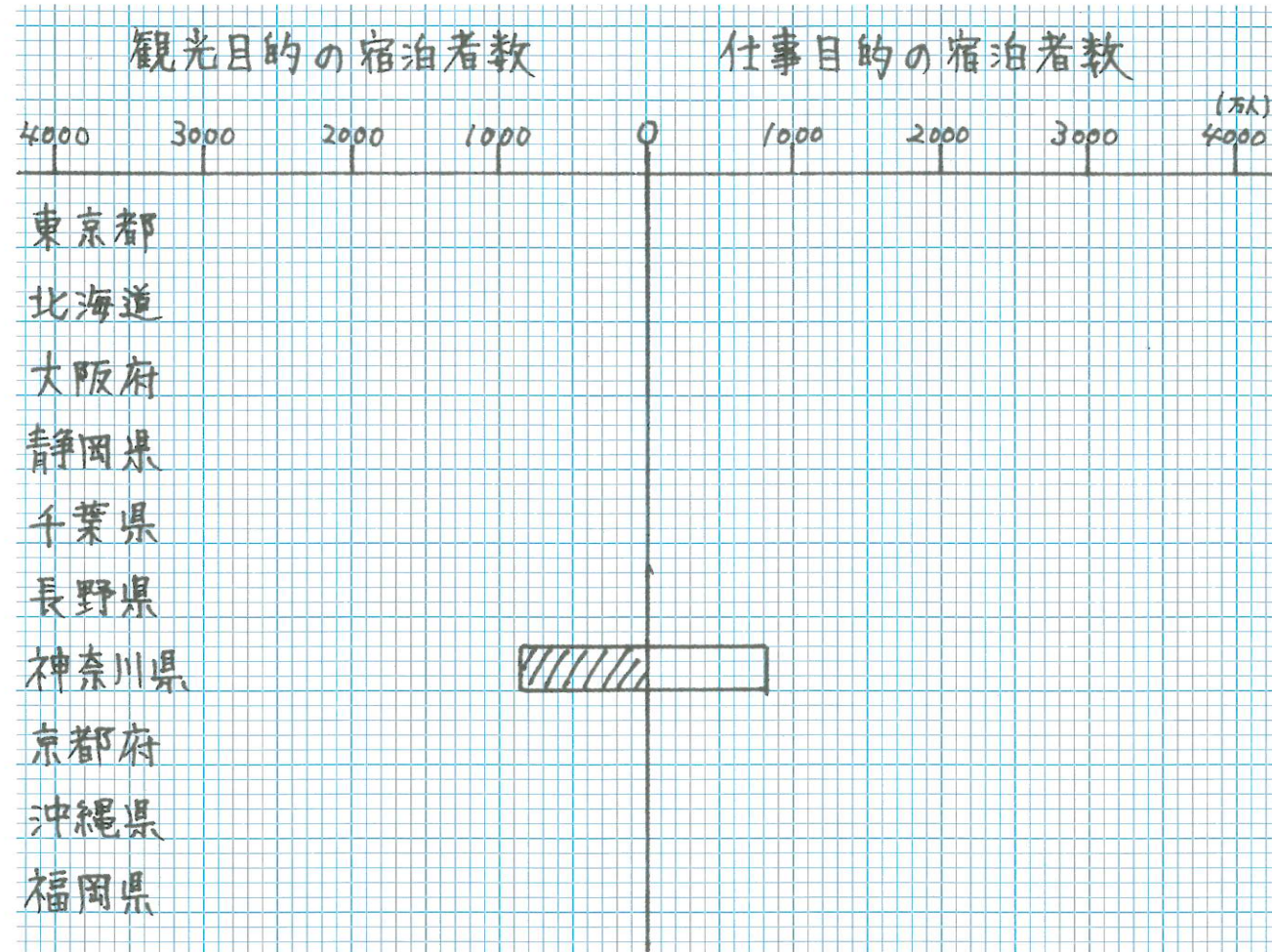
エ 参勤交代^{さんきんこうたい}がなくなり、大名やその家臣たちが宿泊施設を利用しなくなったから。

IV. 今まで答えてきたことを参考にして、次の問に答えなさい。

問 1 江戸時代より前の旅と、江戸時代の旅では、どのようなちがいがありますか。身分に着目して説明しなさい。

問 2 江戸時代と現代の観光旅行では、どのようなちがいがありますか。移動手段や旅行目的の変化に着目して説明しなさい。

I.
問1



問2

都道府県名	記号	都道府県名	記号	都道府県名	記号
都道府県名	記号	都道府県名	記号	都道府県名	記号

※

問3

鎌倉市	説	
番号	明	
箱根町	説	
番号	明	
藤沢市	説	
番号	明	

※

II.
問1

問2

※

問3

III.
問1

問2

問3

問4

問5

問6

問7

問8

問9

※

IV.
問1

※

問2

※

受験番号

氏名

評点

※